

職能科通信 46号

2020年 5月発行

職能科通信

検索

〒243-0121
神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県リハビリテーション病院
職能科
TEL&FAX 046-249-2571

新年度を迎えて

神奈川県総合リハビリテーションセンターは再整備を終え、昨年夏よりグランドオープンしました。新型コロナウイルスにより国内は未曾有の困難を迎えておりますが、助け・支えあいながら、一致団結して乗り越えていきましょう。

職能科は、神奈川県リハビリテーション病院に組織され、病院職員として8名（うち作業療法士2名）、さらに七沢自立支援ホーム（障害者支援施設）の施設配置基準外で1名、計9名の職業指導員で職業リハビリテーションサービスを提供させていただいております。（写真1）

支援については、担当医からの訓練指示書（処方）により、職能評価を踏まえ、目標別に「就労支援部門」「社会参加支援部門」にて支援をさせていただいております。サービスの質の向上に向けた研鑽を行ってまいりますので、今後とも、ご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

（松元 健）



写真1 職能科職員

2019年度の支援のまとめ

2019年度は担当医からの訓練指示書（処方）553件を受け支援を行いました。所属別内訳は、入院303件、外来232件、七沢自立支援ホーム18件でした。実人数457人の障がい別内訳では、外傷性脳損傷・脳血管障害・脳疾患など脳損傷の方が79%、脊髄障害・その他（難病など）の方は21%でした（図1）。また、就職・復職をされた方は73名でした（表1）。

（松元 健）

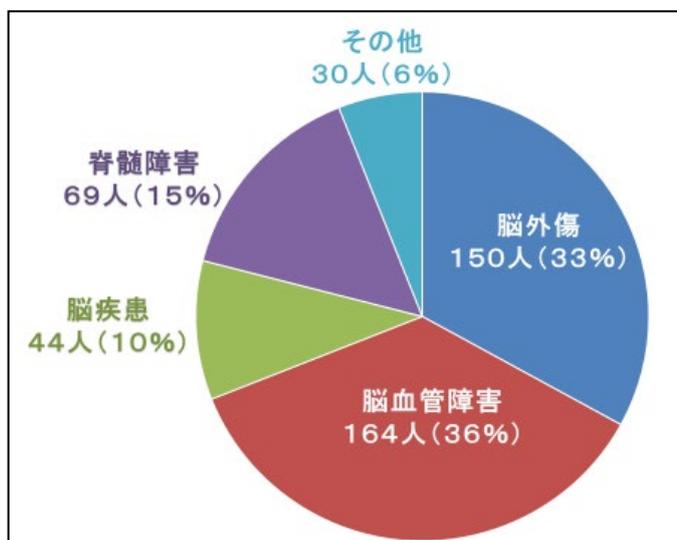


図1 2019年度 障害別実人数内訳

就業形態	人数	新規就労			
		人数	割合		
新規就労	7	外傷性脳損傷	2		
		脳血管障害	2		
		脊髄障害	3		
		復職	65	外傷性脳損傷	16
				脳血管障害	39
				脳疾患	4
脊髄障害	1				
その他	5				
自営	1	脊髄障害	1		
計		73人			

表1 2019年度 就労者数

【就労支援部門】

就労支援部門で支援を行っている方を障害区分で見ると約 5 割の方が脳血管障害、3 割弱が外傷性脳損傷、その他脊損・頸損、脳炎や腫瘍術後後遺症、低酸素性脳症などが 2 割という内訳になっています。障害状況では、脳血管障害・外傷性脳損傷の後遺症による高次脳機能障害の方が 7 割以上になっています。

職能科は入院の早期の段階から就労に向けた支援を行っていくことが特徴ですが、患者さんは広域か

ら来られ、多くの対象は高次脳機能障害の方であり、支援も長期間にわたります。その中で地域の支援機関の方々と連携する機会も多く、その重要性を実感しています。一方で、職能科の役割も問われていると感じています。現在いくつかのグループ訓練を導入するなど支援の在り方を再考しております。少しでも安定した地域生活、そしてスムーズに次のステップに進むことができるよう、より良い支援を模索していければと思っています。（今野 政美）

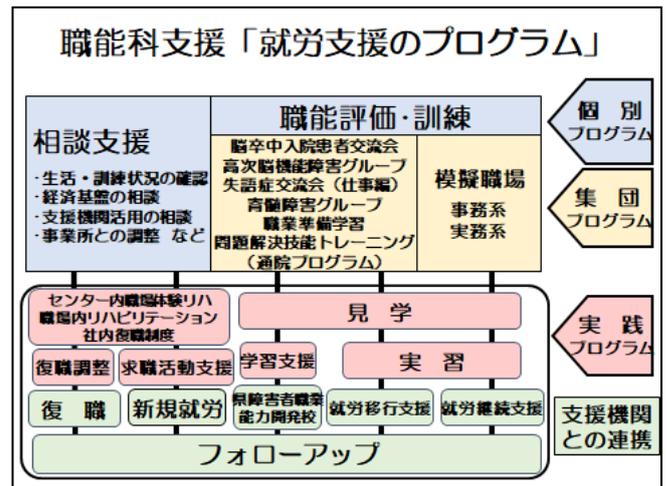


図2 就労支援のプログラム

【社会参加支援部門】

社会参加支援部門では、主に、復学や退院後の在宅生活における日中活動、その日中活動での組み立てに必要な地域活動センターなどの地域の諸活動施設に向けての準備をする場所として活用して頂いております。入院から必要に応じて外来まで、日中活動の組み立ての一助と成る様に、ご本人様のニーズに合わせて、『身体・認知機能』・『体力』・『意欲・モチベーション』等に配慮して取り組める訓練課題・訓練環境をご提案・ご提供させて頂いております。

ご本人様のニーズにお応えし、より良い支援を提供して参りたいと思います。（山本 和夫）

【異動職員の紹介】

しばた たすく
柴田 佑（作業療法士 社会参加支援部門）

今年度より職能科に配属になりました。昨年度までは、脳血管障害を発症した患者様が多く入院している回復期病棟の作業療法士として働いていました。

職能科では、入院から退院までの支援に加えて、必要な方には退院後外来での支援も行っています。入院中の患者様の身体や認知機能の向上だけでなく、退院後の患者様にとっての自分らしい生活を手に入れること、安定した生活を継続することを目指して、作業療法士として支援を提供したいと思っています。

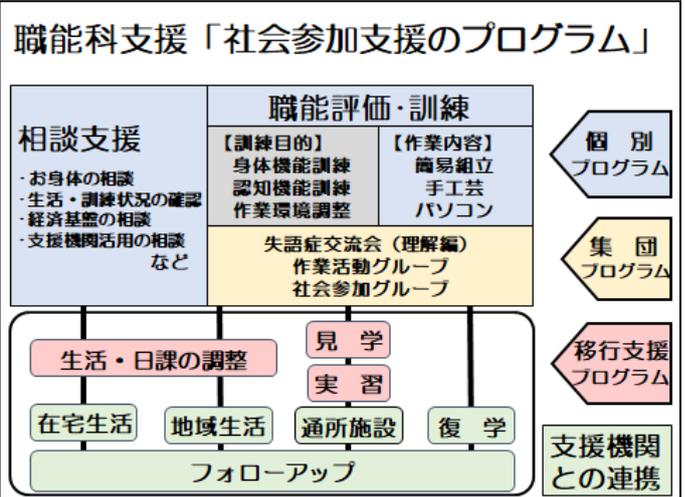


図3 社会参加支援のプログラム